



# 前へ! Vol.3

## 明大アスリート



明治大学応援団  
新宅 杏子  
Kyoko Shintaku  
政治経済学部4年  
明治大学応援団 第96代団長

明治大学、そして東京六大学史上初の女性応援団団長となった新宅杏子さん  
「私達は今の団を任されていますが、それがあつたのも先輩方のおかげです」  
自負と敬意、そして伝統と変革  
道なき道を行く明治大学応援団の挑戦が、今まさらにはじまった

### Q1 初の女性団長として就任された 今の目標をお聞かせください

「時代に先駆けた応援団になる」が目標です。「団員一人ひとりが団体における輪を重んじつつ、個人の意思を持って行動し、応援団の発展に尽力する」ということです。「伝統ある部ですので、これまでで行ってきた慣習がたくさんあります。それらの本質的な意味や背景を再確認し、変えていくのか、それとも残していくかということ、を団員全員で話し合っていきたいです。」

### Q2 長い伝統がある中で、変えていく のは大変ではありませんか?

厳しいお言葉をいただくこともありますが、「現役生のやりたい形にすればよい」と言ってくれる先輩もたくさんいらっしゃいます。大変なことも多いですが、

### Q3 応援団に きっかりお聞かせください

応援団が新入生歓迎の期間中に開催している六大学野球の神宮ツアーがきっかけです。すごく楽しくて、ここで私も応援してみたいと感銘を受けました。また、フルートの経験があったので、これならできるかもしれないと思って入部しました。

### Q4 先輩、後輩など印象的な 出会いはありましたか?

その時の神宮ツアーで、私達新入生に

### Q5 大学関係者や 明大生にメッセージを

熱心に声をかけ、盛り上げてくださった1学年上の上村勇人先輩です。その後、私もスタンドの皆様に応援を呼びかける立場になって、それがいかに難しいことなのかと痛感しました。また、同じパールの先輩に刺激を受け、より練習に熱が入りました。結果的にフルートも上達し、演奏を楽しめるようになりました。応援活動は大好きですが、演奏自体を好きになれたのは先輩のおかげです。

応援団はもちろん応援をするためにいるのですが、私達がただ応援をリードするのではなく、集まった皆さんに声を出し、手を挙げて、応援していただくことが必要不可欠です。いつも一緒に応援してくださる、明大生や校友、ご父母の皆さんには、とても感謝しきれない思いがあります。

また、六大学野球の応援に来たことのない明大生にもぜひ足を運んでいただきたいです。大勢でスタンドでの人絵文字を作る企画、紫色の物を身につけて応援するようなイベントも企画しています。もちろん他大学の方といらしていただいても大歓迎です。

**PROFILE**

**明治大学応援団**  
1921年創設。吹奏楽部、チアリーディング部、応援指導班の2部1班から成り、東京六大学野球をはじめとした体育会運動部の応援を中心に活動。2017年度は「改革」をスローガンに、時代に即応した新しい応援団の形を目指す。  
ホームページ <http://www.interq.or.jp/smart/ouendan/> Twitter <http://twitter.com/meijiouendan>